

情報連絡員報告総括表(令和7年2月期)
富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・原材料価格の高騰、物流コストの上昇、人手不足など様々な課題に直面している。特に、味噌の主原料の一つである米が大きく高騰し、製造原価のアップが経営を圧迫し始めている。 ・消費者の米離れ、味噌離れは、味噌業界にとって問題である。
	パン製造業	↘	→	→	→	↘	↘	→	↘	↘	・原材料価格の値上がりが続いている。 ・消費者は必要なもの以外は買わなくなっており、売上減少が続いている。
	処理牛乳・乳飲料製造業	↘	↘	↗	→	→	→	↘	→	↘	・特になし。
繊維工業	ニット製造業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	→	↘	・受注は減少傾向にある。 ・価格転嫁により販売価格は上昇しているが、原価も上昇しており、収益改善には至っていない。 ・衣料関連は依然として厳しい状況である。
	絹人織織物業 製 造 業	↘	→	↗	→	↘	→	→	→	↘	・受注が減少している。 ・生活必需品など諸物価高騰により需要が減退していることや織物商品価格の値上げによって、売上数量が減少している。
	綿・スフ織物業	↘	→	→	→	↘	→	↘	→	↘	・端境期のため受注は減少傾向にある。4月以降の回復を期待している。
木材・木製品	一般製材業	↗	→	→	→	↘	→	→	→	→	・県内の新設住宅着工戸数は、全国の前年同月比4.6%減に対し、前年同月比3.3%増となっている。能登半島地震に伴う再建住宅需要に、一部の事業者が取り組んでいることなどが要因として考えられる。 ・木材が使われる割合が大きい全国の持家住宅着工数については、前年同月比で4ヵ月ぶりに減少している。 ・売上は、前年同月比で増加しているものの、ロシア材価格の上昇、需要の停滞、従業員の確保などの課題があり、引き続き厳しい経営環境にある。 ・ロシア材取扱事業者は、産地事情が厳しいことによる低水準の荷動きや円安に伴う仕入れ価格の上昇分を転嫁出来ないことから、苦戦が続いている。
	その他の木製品製造業	↗	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。

印刷業	印刷業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	↓	・第3弾の印刷用紙の値上げが1月初めに実施され、紙離れが著しい中でのコストアップは、益々市場の縮小に繋がっている。 ・需要を維持するために、業界全体で紙の印刷の良さをPRしていかなければ、ペーパーレス化の流れを変えることは難しい。
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・原料や燃料の上昇は続いており、収益を圧迫している状況に変わりはない。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比約84%となり、前年実績を3ヵ月ぶりに下回っている。 ・4月からの累積出荷量については、前年比約96%となっている。
	コンクリート製品製造業	↓	→	↗	→	↓	→	↓	↓	↓	↓	・特になし。
	骨材・石工品等製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	→	・生コン、コンクリート二次製品、アスコン等の各得意先との令和7年度の骨材納入契約を、3月末までに完了するように進めている。 ・令和7年度の骨材価格については値上げしない。 ・骨材の需要は、堅調な状況で推移している。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・小型建機、工作機械及び産業機械関連部品など、一般的に受注は低迷しており、先行きの景況感も悪化している。
	銅・同合金鑄物製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	アルミニウム製品製造業	↘	→	↗	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	↗	→	→	・共同受電設備の老朽化が激しく、電柱配線（接合部分）の交換が必要である。
	めっき加工業	↘	→	→	→	→	→	↘	↘	↘	・取引先の生産量が減少しているためめっきの需要が減少し、売上の前年同月比減少が続いている。 ・取扱量の減少に伴い材料費も減少しているため、収益状況や資金繰りには大きな変化はない。
一般機器	金属工作機械製造業	↗	→	→	→	↗	→	→	↘	↗	・受注状況及び売上ともに、前年同月と比べて増加している。中でも自動車関連が好調で、緩やかな回復傾向を見込んでいる。
	金属加工機械製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	非金属用金型製造業	↘	→	↘	→	↘	→	↘	→	↘	・一時、上向く気配も見られたが回復までには至らず、依然として金型重要は低迷した状況が続いている。 ・経営環境が目まぐるしく変わる中、変革なしでは事業継続は難しく、現況に応じた編成、組織へとどう変われるかが問われている。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	→	→	↗	↗	→	→	→	→	→	・中国経済が未だ回復していないことから、産業機械向けは需要が停滞している。 ・新製品開発案件は増えてきているが、実行に至らない案件も多い。 ・大手自動車メーカーの電動車の開発に遅れが出ており、収益化までに時間がかかっている。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	→	→	↗	→	→	→	→	↘	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	↘	↘	→	→	↘	↘	→	→	↘	・観光客は増えているが、売上は伸びていない。 ・毎年2月に首都圏で開催されている展示会の売上を期待していたが、今年は落ち込みが大きい。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
卸 売 業	セメント卸売業	↘	→	→	→	↘	→		→	→	・冬季需要が減少しているところに、寒波の襲来で工事関連がストップしたため、袋セメント取扱数量は大幅に減少している。しかし、昨年4月から2月までの累計では前年比オーバーを維持している。 ・セメントメーカーより4月からの値上げ要請があり、私製袋との価格差が更に広がることによって、せつかくの増加基調に水を差すのではと危惧している。 ・建設関連事業は、資材価格や人件費、運搬費が高騰したことで、着工数は横ばいか減少傾向で伸びは見られないが、引き続き能登半島地震災害復興に伴うインフラ関連工事が旺盛となっているため、出荷増加に繋がっていると想定される。
	非鉄金属製品卸売業	→	↗	↗	↘	↘	↘		→	↘	・受注減で仕事が無く、更に、分業の担い手不足による廃業や取り扱いの終了も続き、先行きが不安である。
小 売 業	鮮魚小売業	↘	→	↘	→	↘	→		→	↘	・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業	↘	→	→	→	↘	→		→	↘	・大雪の影響で消費者は外出を控えたため、売上は減少している。
	野菜・果実小売業	→	→	↗	→	→	→		→	→	・2月の富山卸売市場は、前年同月比で数量87%、単価118%、売上は102%となり、2月も入荷収量減の単価高が続いている。 ・単価高の原因として、生産者の高齢化や生産従事者の不足による生産量の減少、温暖化の影響、物流問題の影響が挙げられる。 ・価格は需要量と供給量で決まり、コストをかけても豊作になれば価格は下がるため、生産コストが上昇しても価格に反映できず、生産意欲の低下を招いている。
	家庭用電気機械器具小売業	↘	↗	→	→	→	→		→	→	・業界全体が低迷している状態である。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ガソリンステーション	↗	→	↗	↘	↘	↘		↘	↘	・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制などSSの経営環境は厳しさを増している。 ・物価高による利用者の節約志向が響き、ガソリン販売量の減少は続いているが、2月は寒波の影響で販売量は増加している。 ・販売価格については、政府による燃料油価格激変緩和対策事業の補助額縮小に伴い、大幅に上昇している。
	農機具小売業	↗	→	↗	→	→	→		→	↗	・昨年の米価高騰の恩恵を受けて、農業機械の販売状況は、若干の好調状態が続いている。
	スポーツ用品小売業	↘	↗	↗	↘	↘	↘		→	↘	・大雪の影響で客数が減少、更にガソリン価格の高騰や物価高により、商品の売れ行きが悪くなっている。
	ショッピングセンター	→	→	→	↘	↘	→		→	↘	・消費者の節約志向が更に強まり、高価格帯と低価格帯の消費の二極化が進んでいる。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→	→	・大雪やそれに伴う公共交通機関の運休等の影響で、平日は閑散とし、週末や百貨店のイベント時にも駐車場に空きが見られ、例年同時期よりも商店街へ出掛ける人が少なかった。 ・ニューヨークタイムズ誌の記事の影響で、観光客からの問い合わせが多く、期待感が増している。
	商店街	↘	↗	↗	→	↘	↘		→	↘	・大雪の影響は大きく、物販、飲食ともに状況は大幅に悪化している。
サービス業	クリーニング業	↘		→	→	↘	→		→	↘	・特になし。
	飲食業	↘		↗	→	↘	↘		→	↘	・寒波襲来により、客数の減少やキャンセルが相次ぐ影響が出ている。 ・あらゆる物が値上がりしている中、特に米の値上がりが大きく苦慮している。
	建築設計業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・2月の自動車新車新規登録・届出台数（登録車と軽自動車の合計）は、自動車メーカーが販売台数を倍増させたことで、前年同月比で2ヵ月連続の増加となっている。直近20年間で、2月としては低水準に留まっているため、まだまだ回復の余地はありそうであるが、個人消費の節約志向が目立っており、新車販売については、予断を許さない情勢が続くと予想される。 ・自動車整備事業者は、各種自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められている。更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えている。こうした課題に対応できない事業者は、自社の取扱い車種が加速度的に減少していく状況にある。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	↘		↘	→	↘	↘		→	↘	・物件の大小を問わず、仕事量が増える気配はない。ゼネコンの厳しい指値に惑わされることがなく、適正価格での受注をすることが大切である。 ・組合員同士が情報交換を密にし、仕事の協力体制を強化しながら、この厳しい時期を乗り切って行かなければならない。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・景況に変化はない。 ・通常業務以外の除雪や消雪点検業務に追われている。また、雪の重みによる宅内水道管の漏水修繕の依頼も増えている。 ・新年度予算の債務負担行為による水道管の早着工事が発注され、仕事の閑散期での発注のため助かっている。
	電気工事業	↗		↗	→	↗	→		→	→	・住宅着工、設備投資、公共事業が増加している中、人手不足や能登地方復旧工事による手持ち工事が飽和状態になりつつある。 ・資材高騰による工事単価の見直しにより、収益状況は好転しつつあるが、賃金引き上げの必要もあり、見通しは厳しい。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	↘	→		→	→	・軽油価格が前年同月比で7円/ℓ以上値上がりしており、収益状況は悪化している。
	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・燃料価格は、前年同月比＋5.0円/ℓと高止まりの状況である。 ・物量は、前年同月比100.9%と前年並みである。